

# 図書館だより

枚方市立図書館通信第 115 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/citybrand-kyouikubunka/tayori.html>

発行：平成 28 年 6 月 枚方市立中央図書館（休館日：毎週金曜日、第 4 火曜日）

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962



ポローニャ国際絵本原画展 2 年連続入選記念  
市内在住切り絵作家「たけうち ちひろ展」  
中央図書館にて。  
左：たけうち ちひろさん

## ひらかた絵本まつり 4/23~5/12 開催しました 「たけうち ちひろ絵本原画展」ほか 盛況

枚方市立図書館 8 館 10 分室で「ひらかた絵本まつり」を開催し、1950 人の来場がありました。「たけうち ちひろ絵本原画展」には 1,090 人、中央図書館に隠された折り紙こいのぼりを見つける「リアルミッケ」には 289 人でした。

たけうち ちひろさんは、昭和 46 年生まれ、武蔵野美術短期大学グラフィックデザイン科卒業。地域情報誌の編集・制作に携わったのち、平成 19 年から子ども造形絵画教室「おえかきひろば」を主宰し、大阪府や京都府を中心に 11 教室を開設しておられます。初日の 4 月 23 日に開催したギャラリートークでは、ポローニャでの授賞式の様子、はさみやカッターならではのシャープなエッジを活かした精密な画面構成、海外の出版社との交渉の様子などを熱く語られました。

この展覧会は、蹉跎図書館と牧野図書館を運営する指定管理者と協働で開催、5 月 12 日から 22 日蹉跎、5 月 26 日から 6 月 5 日に牧野と巡回しています。

（お問い合わせ：中央図書館児童サービスグループ 電話 050-7105-8121、ファクス 851-0962）

## ヘッドライン・ニュース

### ●【10 中学校区に学校図書館司書派遣】

枚方市立図書館は、平成 26 年 6 月から、第四中学校、長尾中学校、桜丘中学校の 3 校区に学校図書館司書を派遣していましたが、学校との連携をより強化するため、平成 28 年 4 月から新たに下記の 7 校区に学校図書館司書を派遣しました。

第二中学校、津田中学校、楠葉中学校、杉中学校、山田中学校、渚西中学校  
長尾西中学校

### ●【読み聞かせボランティア養成講座/開始】

定員 20 人のところ 62 人の応募がありました。6 月に講義を受けたあと、7 月～11 月まで子どもたちを前に「実習」をしていただきます。12 月 4 日(日)修了式。

### ●【新・中央図書館ボランティア 10 人登録】

定員 10 人のところ、20 人の応募がありました 6 月に 4 回研修を受講後、7 月から主に読み聞かせを担当していただきます。

### ●【レファレンス体験実施中】

「レファレンス」とは、数ある本の中からお目当ての 1 冊を探すお手伝いを図書館職員が行うサービスです。ぜひ「レファレンス体験」にお越しください。(毎月第 3 木曜日午後 2 時～受付、電話可)

電話 050-7105-8150、ファクス 072-851-0962

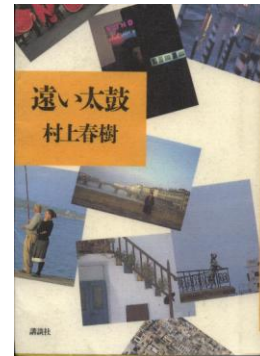
### ●中央図書館一般書のフロア（4 階）

6 月特集【熊本へ、九州へ、エールを！】

平成 28 年度熊本地震で被害に遭われた方たちへの応援に繋げるために、熊本の魅力、そして九州の魅力に触れる本をご用意します。また、もう一度私たちの防災を考えてみましょう。そのための資料をご用意いたします。みんなで、「くまモン、ガンバッ!!」。6 月 30 日まで募金受付中。

## ちょっと本の紹介

### 《村上春樹の楽しみ方》



\*表紙画像「遠い太鼓」講談社/1990 年

現代日本を代表する小説家のひとり、村上春樹は 1949 年京都市伏見区に生まれ、西宮市、芦屋市で育ちました。『風の歌を聴け』（講談社/1979 年）でデビュー。以後、着実に作品を積み重ね、ノーベル文学賞の有力候補とみなされています。

人気作家ゆえ賛否両論の嵐にさらされていますが、海外でも大人気で多くの作品が各国語に翻訳されています。もちろん、私もファンのひとりです。そこで提案です。村上ワールドをより深く理解するために、小説や紀行、エッセイ、ノンフィクションなどジャンルは問わず、発表順に読み進めてはいかがでしょうか？

まるで「巡礼の旅」か「お礼参り」ですが、私自身は以前に 1990 年代までの作品を読み返したことがあります。その時々象徴的な事件を作品のなかに取り込んでいるので、その時代に村上春樹が何を考え、何を表現しようとしていたのかを推理して、村上春樹とともに同時代を生きていく臨場感がありました。作品の変遷をたどると村上ワールドの広がりがより深く理解できたような気がして、次回作への期待も高まりました。再読ではありましたが、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮社/1985 年）、『ノルウェイの森』（講談社/1987 年）には感銘を受け、紀行文『遠い太鼓』（講談社/1990 年）も小説の解説書のように興味深く読みました。

定年退職後、再び「風の歌を聴け」から読み始めて全作品を巡礼するつもりです。

(中央図書館：選書・読書支援グループ職員)